Kishida, K.-Notes on two spider genera *Chiracanthium* and *Clubiona*.

コマチグモとフクログモに就て

岸　田　久　吉

東京市板橋區練馬南町2丁目3848

〔昭和11年7月3日受領〕

I. フクログモ科の亞科の名稱

フクログモ科のものの分類は相當むつかしい。その亞科のわけ方に就ては，イタチグモの所屬決定を發表した際(1930)，ランザニア vol. 2, No. 16, pp. 81—87 に卑見を書いておいた。その亞科名は次表の通りに7つある。

1) フクログモ亞科……Clubioninae ……例　フクログモ；コマチグモ；アヲミグモ
2) キヅツグモ亞科……Anyphaeninae ……例　キヅツグモ；フタスヂグモ
3) ウラシマグモ亞科…Liocraninae ……例　ウラシマグモ；オトヒメグモ　イタチグモ
4) ネコグモ亞科……Trachelinae ……例　ネコグモ
5) ミルメキウム亞科…Myrmeciinae ……例　ミルメキウム
6) ツヤグモ亞科……Corinninae ……例　ツヤグモ；デガバチグモ
7) ミアンドラ亞科……Myandrinae ……例　ミアンドラ

問題の性質上，上記亞科名の檢索表を掲げておけば，査定の誤を防ぐには役

立つことであらう。

II. フクログモ科の亞科の區別

A　後疣末端卽ち第二節は長大で，圓錐狀を呈する。下顎前緣の前半には曲つた長毛後半には端直な短毛を有つ。

B　下唇部は長さが幅より遙かに大きく，下顎の半分よりも先に出てゐる。下顎は中程がくびれてゐる。

C　氣管氣門の位置は（尋常であつて）後方に在る。…フクログモ亞科

CC　氣管氣門は腹部下面の中央乃至前方にある。……アニヘナ亞科

BB　下唇部の長さは幅よりも大もきくはない。下顎は格別くびれを示さぬ。氣管氣門の位置は尋常である。……ウラシマグモ亞科

AA　後疣末節は短小で殆んど丸いか，乃至は有るか無いかわからぬ位である。下顎前內緣は前方だけに長毛を有する。

B　下唇部は長さが幅よりも遙かに大きい。

C　背甲の形は(尋常であつて)卵形。體はアリ狀ではない。……ネコグモ亞科

CC　背甲は狹長になり，體は一見アリ狀である。……ミルメキウム亞科

BB　下唇部は長さが幅に比べて別に大きくもない。

C　前疣は他の蛛疣よりも長いことはなく，前方に離在しても居らぬ…ツヤグモ亞科

CC　前疣は頗る長いし。又他の蛛疣よりも遠く前方に離れてゐる。……ミアンドラ亞科

III　フクログモ亞科の屬名と各屬の分布

ところで，問題のコマチグモもフクログモも共にフクログモ亞科に屬する種類である。此亞科の屬は相當に多いが，その主なるものの名稱と分布は次表の通りである。

屬名 ＼ 分布區域		新熱帶地方	エシオピア地方	全北地方	東洋地方	オーストラリア地方	ニユージーランド地方
Adcatomus	アドカトムス	+	…	…	…	…	…
Aysenia	アイセニア	+	…	…	…	…	…
Carteroniella	カルテロニエラ	…	…	+	…	…	…
Carteronius	カルテロニウス	…	+	…	…	…	…
Chiracanthium	コマチグモ	+	+	+	+	+	…
**Clubiona*	フクログモ	+	+	+	+	+	+
Dorymetaecus	ドリメテクス	…	…	…	…	+	…
Eutychuroides	エウチクロイデス	…	…	+	…	…	…
**Eutichurus*	アヲミグモ	+	…	+	…	…	…
**Lauricius*	ラウリキウス	+	…	…	…	…	…
**Macerio*	マケリオ	+	…	…	…	…	…
Matidia	マチデア	+	…	…	+	…	…
**Philisca*	ヒリスカ	+	…	…	…	…	…
Simalio	シマリヲ	+	…	…	+	…	…
Strotarchus	スツロタルクス	+	…	…	…	…	…
Systaria	シスタリア	…	…	…	+	…	…
Tolophus	トロフス	…	…	…	+	…	…

IV. フクログモ亞科の群名

此の如く，屬の數も多く，分布も廣いから，小生は，之を次表の如く，5群に分ける。主なものだけを，例に引いておく。

1) マケリオ群 Macericae……例 マケリオ

2) フクログモ群 Clubioneae …例 フクログモ; コマチグモ; カルテロニウス; マチヂア; スツロタルクス; シスタリア; トロフス。

3) ラウリキウス群 Lauricieae……例 ラウリキウス; シマリオ。

4) ヒリスカ群 Philisceae……例 ヒリスカ。

5) アヲミグモ群 Eutichureae…例 アヲミグモ。

V. フクログモ亞科の群の區別

A 後疣の基節は太長くて，梢節よりも遙かに大形である。

B 直眼は第一間眼よりもいく分前位である。

C 直眼は第一間眼よりも僅か乍ら大形である。間眼行は外曲〔( )〕してゐる。

BB 直眼は第一間眼と先づ同一直線上に立つ。

C 直眼は第一間眼よりもいく分大形である。

D 間眼行は外曲してゐる。……フクログモ群。

DD 間眼行は內曲〔( )〕してゐる。……ラウリシウス群。

CC 直前は第一間眼よりも小い。間眼行は外曲してゐる。…ヒリスカ群。

AA 後疣の基節は太長いか，ほそい梢節よりは明かに短い。

眼性はコマチグモによく似てゐる。……アヲミグモ群。

VI. コマチグモ屬の特徵

*コマチグモ屬 *Chiracanthium* C. L. Koch, 1839 の背甲は卵形で，もちろん長さは幅にまさつてゐて，相當に高く，殊に頭部の眼後部は隆まつてゐる。胸

---

*C. L. Koch, Arachniden Hahns, Nuernberg, Bd. 6, S. 9. Genotypus : *Chiracanthium punctorium* (Villers) [=*C. nutrix* C. L. Koch, nec *Aranea nutrix* Walckenaer, 1802)

部の中線前方には普通の他のクモの様な中窩を缺いてゐる。額は中眼域の長さの半分もない位に短い。直眼はその1直徑以上廣く離れてゐるし，第一間眼よりも大きくて，それと同一直線上に立つてゐる。間眼行は強く外曲〔( )〕して居り，第二列が最廣第一列が之に次ぎ，第三列は最も狹い。第一間眼と第二間眼の間は，直眼に第一間眼の間よりも狹く，また第二間眼と第三間眼の間よりは遙かに狹い。直眼と最後の間眼（卽ち第三間眼）とで作つてゐる中眼域は長さが幅よりも僅かにまさり，前邊はたしかに後邊よりも狹いのが常例である。

胸板は廣い舌形一倒卵形であつて，第二步脚の基節間で最もひろく，前邊は先づ端直，後端は銳形である。低い緣を殘して僅かに中凸になり，長毛を疎生してゐる。下唇部は明かに胸板からくびり分けられて居り，後方に中凸である全體長い梯形で，左右兩緣は弱く外曲してゐる。

上顎は長卵狀で，まづ太い方ではあるが，元はふくらみ，外基部には外踝が在る。端の方はほそい，且つ往々前方に開出する。殊に♂では著しい。後下堤には 2—3 本の齒がある。牙は長い。

下顎は長軸は並行してゐる。本體は狹い箆形で，前部はひろがつてゐるが，中途でくびれてはゐない。前緣の內半と內緣の下唇部前には一つづきの長毛束が在る。

觸皮は小いが，步脚狀であつて，♀のでは末端には1爪を有してゐる。♂のでは脛の外先端に小突起を有し，跗の外基部が背曲するところの弓狀大突起が出て居るのが一大特色である。

步脚はよく發達して長いが，存外刺はほそいし，數も少い。殊に♂では然りである。跗の全下稜と蹠の下稜遠端部には毛束を生じてゐる。步脚中で第一對は最も長く，次は第四，第二の順であつて，第三對は最も短い。

腹部は長卵狀——長楕圓狀であるが，少く共♀では楕圓狀に近づき，且つ前部中部が上下に押付けた様になる傾がある。

紡疣ははすべて長柱狀であつて，前疣は太い。後疣は中疣よりは太いが，明

かに，前疣よりもほそく，且つ第二節即ち末節が甚しく短小であつて，一見では有るのか無いのかわからぬ位である。

それから，最後に，♀は胸板と口器を除くと色が淡いし，斑紋も殆ど無いのが常であるし，♂では頭胸部と附屬肢が陽氣に着色してゐるものの，腹部や蛛疣は灰がかつた綠黃色が普通であり，之に特殊の斑紋を有することは珍しいのである。

VII. フクログモ屬の特徴

*フクログモ屬 *Clubiona* Latreille, 1804 の背甲は卵形であつて，長>幅であることは，コマチグモと大差ないが，頭部胸部を通じて，謂はゆるのつぺらぼうに中凸であるし，且つ胸部には長くはないが兎に角縱溝狀の中窩を必ず具へてゐる。額は短いが，それでもコマチグモよりはいく分長い方である。直眼は第一間眼と同一直線上に立つかいく分後位になる傾がある。第一間眼と同大位か或はいくらか小い時もある。直眼同士も直眼と第一間眼の間も明かに開いて居る。間眼行が外曲して居り，その曲りはコマチグモよりもいく分弱い。第一第二兩間眼の間は最も狹いが，直眼と第一間眼の間とは大差無い。第三間眼同士の間は最も廣く，第二第三兩間眼の間よりも一般に廣い。中眼域の長さは明かに幅に劣り，前邊は後邊よりも著しく狹い。

胸板はコマチグモよりも一層狹長，平坦で，前後にほそい，前端は鈍形，後端は銳形である。第二步脚の基節の後で最もひろい。弱々しい毛がほんの少し生じてゐるきりである。シモン氏が屬徵中に …… postice acuminatum と書いてゐるのは，……postice acutum の誤の様な氣がする。下唇部は長舌狀であつて下顎の 2/3 長を有して平坦であり，コマチグモとは可なり趣がちがふ。又，胸板との間には，明かに節間膜が入り込んで來てゐる。

上顎はコマチグモのよりも太く短いし，外基部の外踝は背甲の庇の下にかく

---

* Latreille, Nouv. Diction. hist. nat., t. 24, p. 134. Gentypus *Clubiona pallidula* (Clerck) [sub : *Araneus*]

れかかつてゐて小い。後牙堤には2本の齒があり，往々3—5小齒をも有する。牙も短く太い。♂の上顎でも稀にしか先が開かない。

下顎の長軸は大部は並行してゐるが，前方では弱く開いて居るし，基部と端部でひろがつてゐて，膨出度が著しいので，中央では側緣がくびれて內曲性になつてゐるかと思はれる位である。端部のふくらみは，外緣では丸く，前內緣では斜めに直截してゐる。前緣の內半足らずと此の斜緣に一つづきの長い毛束があることは，コマチグモと別にちがつてはゐない。

觸肢は短いが，その他の一般の様子は步脚狀である。♀では跗が端ぶくれになり，一寸異様である。♂では脛の外遠端に端太の小突起を有し，跗はひろがりがコマチグモよりも強いだけのことであつて，弓狀の大突起を缺いてゐるのが，注意を要する點である。

步脚はコマチグモよりも太く短いし，その刺も一層よく發達してゐる。第一第二兩對の步脚の蹠跗2節はその全下稜に毛束生じてゐる。第三や第四では毛束は殆ど見られず，往々第四步脚の跗の梢半に之を辛うじて認める位に過ぎない。一般に第四對は他の對よりもいく分長い。♀♂での步脚の長さのちがひは殆ど無い。

腹部は長卵狀であつて，いくらか上下に押付けられた様になつてゐる。♀と♂での差は殆ど無い。

蛛疣はやはり柱狀であつて，前疣が太いが，♀では，ほそい後疣の末節が可なり伸びてゐるし，長毛を裝ふて居るので，一寸へんなものである。但し，♂ではコマチグモ式で，前疣と後疣が長さを異にせず，又後疣の末節が長くなつてもゐない。

色彩では♂が陽色，♀が灰がかつて陰氣であることが多く，又腹部の脊に色々の斑紋が♀♂を通じて存在することが珍しくない。此のことは研究者を捕へる。

コマチグモとフクログモは，往々採集者をしてその區別を誤らせるので，實は，此の拙稿も，同好者の質問によつて，急に綴つたものである。此の區別點

を要約すると次表の通りになる。

コマチグモ	區別點	フクログモ
前は中凸後は低い	1. 背甲	前後を通じて中凸である
中窩は全く無い		短い乍ら中窩が在る
大抵前びらきになつてゐる	2. 上顎	殆ど前びらきにならぬ
短く梯形で中凸である	3. 下唇部	長舌狀で平坦である
中央ではくびれて居らぬ	4. 下顎	前が膨大し中央ではくびれる
舌形一倒卵形で後へだけほそる	5. 胸板	狹長で前後にほそつてゐる
跗の外基端に背弓がある	6. ♂の觸肢	跗の外基端に背弓が無い
跗は自然にほそつてゐる	7. ♀の觸肢	跗は端ぶとりである
前扼と先づ同長	8. ♂の後扼	前扼よりも見かけ上いく分長い
同　上	9. ♂の後扼	前扼と先づ同長

以　上

天覽山の蜘蛛採集會概況

前號に豫告した天覽山に於ける第一回蜘蛛採集會の概況を申上ます。時は七月五日，午前八時池袋驛に集合した顔觸は本會より加藤幹事，高島幹事，植村幹事，北野梅太郎氏，仲辻耕治氏，深澤治男氏，土肥豊吉氏，羽富正一郎氏の八名で，他に昆蟲趣味之會々員山本隆氏他一名の都合十名であつた。前日來の曇天は當日の朝になつてもまだくつきりと晴れてゐなかつたので，早くから意氣込んでおられた方々も出鼻を挫かれたのだと思はれた。而し幸天氣は次第によくなり，七月とは云へ暑くもなく誂へ向な採集日和で一同愉快に談笑し乍ら非常な收穫を收め得る事が出來た。天覽山は山と云はんよりもむしろ丘又は森と云ひたいやうな遊樂境であるが此所に會員諸氏を驚かすに足る珍蛛珍品が多數棲息してゐやうとは誰しも豫期しなかつた所である。午後六時再び池袋で次の採集會を約して別れた。此の山に產する蜘蛛の種類に就ては次號に詳しく發表する豫定であるから，諸兄を驚かすに足る珍蛛とは何か，樂しんでお待ちを願ひます。(昭和十一年七月十五日，植村記)